



屋台新調プロジェクトチーム

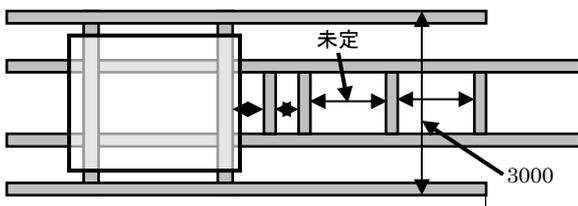
◇屋台新調プロジェクト会議 -1年目白木、2年目漆塗り、3年目鍍金具-

屋台新調プロジェクトチーム発足以降、会議を14回開催し、南之町の“ええやっさ”の全体構想について協議しています。

その間、“チーム福喜”のみなさんと3回意見交換。時には、屋台への熱い思いで議論が過熱することもありましたが「南之町の伝統を大切にしながら、進化する自慢のやっさ」の要望書（案）をまとめることができました。

今回は、現段階での全体構想（案）のおもな内容についてお知らせします。

1☆全体構想（屋台の大きさ・かたち） -安全で担ぎやすく-



- ・屋台の大きさは、2尺7寸の布団屋台で製作する。（現行2尺6寸）
- ・将来、2尺6寸の太鼓をすえることが出来るようにする。（現行2尺5寸）
- ・布団屋根の角度は、現行通りにする。

- ・脇棒から脇棒の幅は3000mm以内に広げ、安全で担ぎやすくする。（現行2800mm）
- ・カンヌキは、本数を屋台前後4本にし、担いで手が届くようにする。（現行と構造が大きくかわるので、担ぎ方の注意点など指導啓発が必要）

※その他詳細は協議中。屋台運行の町廻りの道幅、電線の高さ等の影響を確認する。

2☆曾根天満宮の組物装飾を取り入れる -伝統を繋ぎ進化する-



木鼻の猿



蛙股の松

南之町のやっさをみると「曾根天満宮の歴史に触れることができる」そんなやっさを表現できたらという意見から、曾根天満宮の随神門（正門）、拝殿まわりの建築部材の細部彫刻などを調べてみました。

随神門（正門）の軒下周りは波形や雲形の彫刻、妻部の蛙股は麒麟の彫刻、拝殿の虹梁は木鼻の獅子鼻彫刻、蛙股の松彫刻、本殿の東側は木鼻の猿鼻彫刻など見事な装飾が施されています。

社寺建築の魅力と歴史を伝えるため、曾根天満宮の「組物彫刻」を新調やっさに取り入れることを提案します。

また、南之町のやっさには、曾根天満宮の歴史のいわれを意味する「曾根の松」を表した緑の布団屋根と「菅公一代記」の名場面が彫られている狭間があります。

3☆正角・井筒端・腰組高欄 — 銚金具から彫物彫刻を取り入れる —

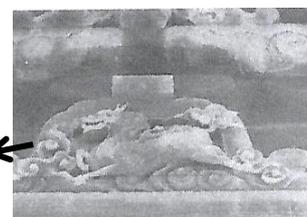
▼首根天満宮（建築部材の細部彫刻！ 江戸時代の匠の技！）



△拝殿前木鼻の獅子鼻

△蛙股の松

△本殿東側木鼻の猿



△随神門軒下廻りの波

△蛙股の麒麟



- 正角彫刻
- 井筒端彫刻
- 腰組高欄正角彫刻

彫刻のデザインは、麒麟、獅子、猿、四神などの案を検討中！



○脇棒受け彫刻（イメージ）

○腰組高欄正角彫刻（イメージ）



△「松文様」の彫刻を入れる。



△「富士の巻き狩り」「景色雲等」の彫刻案を入れる。

☆チーム“福喜” — 詳細は現場で話し合いながら最高の屋台を製作する —



- ◇宮大工 福喜建設株式会社（姫路市木場）
- ◇彫師 木彫刻 賢申堂（大阪府岸和田市）
- ◇塗師 砂川漆工芸（姫路市西新町）
- ◇銚師 かざり金具きたかど（姫路市土山4丁目）
- ◇下地師（布団屋根）大和建築（姫路市白浜町）

※ 新調屋台に対するご意見は、プロジェクトチームのメンバーに！ お待ちしています。

No3トピックスは、斗組・垂木・高欄の白木新調の匠の技を紹介します。